



## 第1回「さわやか」 座談会

九月二十三日午前十時から北九州市立男女共同参画センター・ムーブ五階にて、通院介護センター「さわやか」の「座談会」が開催されました。この「座談会」は、先月行なわれた「三県合同ボランティア研修交流会」で、『充分発言できなかった』との意見が上がり、「さわやか」のボランティアさんだけで、今一度ザックバランに話しをしよう、という趣旨で、開催されました。

「座談会」は、山田浩美副理事長の司会で進められました。最初に「三県合同」の感想が語られ「他地区の皆さんの苦労が良くわかり、よかった」「もっと、シンポジスト以外の人の意見も聞けたら良かった」「時間が短かった。もっと聞きたかった」などの発言がありました。総括的に言うなら、研修交流会は、いままでの講演会方式と趣を変え、シンポジウム方式にしたのは、良かったのではないのでしょうか。

続いて、送迎をしている中でかかえている問題を出し合いました。主な問題点の何例かは、次のとおりです。



Q・・・「急に相乗りを要望され、即答できずにやむを得ず乗せた。こんな時はどうしたらよいか。」

A・・・とっさの要望で、現場で即、対応するのは難しいので、事後報告を事務局にして、コーディネーターから、注意をしてもらう。ボランティアさんが直接、断り、トラブルの原因にならないようにする。との事務局からの回答がありました。

Q・・・「同じ利用者を、一年以上も送迎すると、心が通じ合うようになり、親しみもわいてきます。そんな時、時々粗品を出される方がおられます。いつも受け取ってよいのか迷います。どうしたらよいのでしょうか。」

A・・・物によりますが、志程度であれば受け取っても良いのではないのでしょうか。無理に断るのも、失礼にあたるのではないのでしょうか。但し、事務局は、市の助成金で運営しているので、一切の贈り物は返却しています。



Q・・・「送迎は、ドア・ツウ・ドアといいますが、現実的にはそうはいかない時があります。厳格にドア・ツウ・ドアを守らなければならぬのでしょうか。」

A・・・介護保険制度でしているのではないので臨機応変に対応してください。血圧低下で意識できないでしょう。介護保険では、様々な規制がありますがボランティアさんには規制がありません。法律には必ずと言っていいほど漏れがあります。その漏れた部分をカバーするのが、ボランティア活動ではないのでしょうか。でも、原則はドア・ツウ・ドアです。

が、ボランティア活動ではないのでしょうか。でも、原則はドア・ツウ・ドアです。



▼送迎中、車内で利用者との対話について▲まず、ほとんどのボランティアさんが「血圧は低くないですか?」と聞くそうです。利用者の体調をまず、考えて対応します。それから、家族のこと、病気のこと、世間話などするそうです。最初、利用し始めのころは、笑顔がなく、無口だった利用者が、今では、笑顔も見られ、会話もできるようになった。とお話も・・・。

車の中でおしゃべりをすることは、日常、行動範囲の狭い利用者は、楽しみにしている方もおられ、利用者に対するカウンセリングになります。

また、Hさんからは、「ボランティアは、人間として大事なことです。社会的弱者に手を差し伸べることは、皆の役割だと思っボランティア活動に苦痛を感じたことはない。安全第一で、利用者さんとのふれあいを大切にしている。」との貴重な意見も出されました。



ボランティアさんのなかには、『介護保険の普及により「さわやか」の通院送迎が必要無くなるのではないか』という不安をもっていた方がおられましたが、この座談会で通院介護センター「さわやか」は、北九州市の中で、また、全国的にも注目されている事務所であることも述べられました。それを聞いたボランティアの方達は一応に自分達もその活動に誇りをもって活動できると安堵されていました。

最後に江頭理事長から、「今後とも、ますます研鑽を重ね前進することを誓い、ボランティアの皆様のご協力をお願いします」との結語が述べられ、座談会は、成功裏に幕を閉じました。





十月五日ス  
テーシ  
ヨンホ  
テル小  
倉にお  
いて、  
特定非  
営利活  
動法人  
ホーム  
ヘルプ

事業いきいき北九州の設立五周年記念祝賀会が行われ、「さわやか」より山田、梶原、寄友、高原が招待を受けました。

いきいき北九州の廣末氏が開会の挨拶され、江頭代表理事よりいきいき北九州の歴史が語られ、「さわやか」の通院送迎だけでは、透析患者さんの自立した生活は出来ないと考え、北九州市の進めもありいきいき北九州の事業所を立ち上げましたが、回りからいろいろな中傷を受けたり、事業に対する不安やその時の苦労を考えると、こうして五周年を迎えられる事ができ感謝無量です。これも、設立当初から、係わってこられた方々や現在のスタッフの皆さんのお陰です」と大変感激されてい

ました。「さわやか」の山田副理事長が「さわやか」が送迎することができない、患者さんが、いきいき北九州さんのおかげで、通院だけでなく、自宅で安心して自立した生活が出来るようになり、北九州市や、回りの同業者からも、いちもく置く素晴らしい事業所に発展されたことは、同じ北九州市腎友会の会員として、大変誇りに思います」と祝辞を述べました。

また、小野さん、畠中さん、片岸さんに、永年勤続の感謝状が渡されました。

その後、山田 勲副代表理事より、「さわやか」の紹介と事務局員の紹介があり、「今後いきいき北九州との連携を更に深めていきましよう。」と言われました。

会場内のあちらこちらで、それぞれに交流の輪が広がり、大変楽しく、有意義な祝賀会でした。



## 創立五周年 事業について

総務部長  
廣末 一美

平成十六年十月吉日に小倉ステーションホテル四階の貴船の間にて設立五周年記念事業が開催されました。

平成十一年十月一日に江頭さん、竹内さん、河添さん、山田さん、小野さんの五人のメンバーにて「さわやか」に続いて「いきいき北九州」がこの地に誕生致しました。思えば、北九州市より全国に先駆けて、通院送迎サービスの「さわやか」を設立し、北九州市に信託され、今度は介護保険サービスの事業《訪問介護、居宅サービス介護》をやってみないかと北九州市福祉課の指導により、特定非営利活動法人ホームヘルプ事業いきいき北九州が誕生致しました。

始めは、電話一つ無い何もない事務所で不足している物は、各自自分の家から持ち寄って始まり、売上高も百万円からスタートして、ヘルパーさんの給料を支給し必要経費を払えば、ボーナスはもちろん、給料も何ヶ月も貰えない



祝賀会参加者全員で記念撮影

います。ホームヘルプ事業いきいき北九州は、今では北九州でも一位か二位を争う事業所となり、人員も十三人に増え、全員一丸となり十周年を目指してスタッフ一同、一生懸命仕事に頑張っている今日この頃です。

設立五周年記念事業も盛大に盛り上がり有意義な時間を過ごさせて頂きました。これからも「さわやか」、「いきいき」と助け合って頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

## 軽食・喫茶「やすらぎ」 設立五周年

北九州市総合保健福祉センター一階に喫茶「やすらぎ」があります。「やすらぎ」も腎友会の会員が働ける場所をとの思いで北九州市腎友会の江頭会長が北九州市総合保健福祉センターが建つことを知り、北九州市に陳情し、五年前に設立しました。早田店長をはじめ十一名の腎友会会員が楽しく働いています。北九州市総合保健福祉センター入ってすぐ右手にあり、明るなお店です。お近くにお越しの際は美味しいコーヒー等いかがでしょうか。